

1.技 術	1.3 生物処理による下廃水の処理
2.事 業 名	1.3.30 効率的下水処理システムの開発
3.キーワード	膜処理、下水道、下水処理
4.目的	本事業は、雨天時浸入水対策としての大孔径膜処理システムの開発を目指し、既往研究成果のさらなる向上(高透過流束や大孔径膜に適した膜洗浄方法等の検証)を目的として行ったものである。
5.内容、成果	<p>雨天時における水質管理の推進の観点から、合流式下水道の長期的な改善目標に向けた処理レベルの向上や、分流式下水道への雨天時浸入水の効率的な処理のための技術開発が待望されている。平成29年度～30年度にかけて「ICT・観測技術の活用等による低コストで効率的な雨天時下水処理技術」をテーマとした下水道応用研究に対して、造水促進センター、京都大学、北九州市立大学、日本水工設計(株)、(株)フソウから成る共同研究体で、「既存施設を活用した効率的な雨天時下水処理システムの開発」と題して、大孔径膜を主体とした処理システムを提案・検討した。</p> <p>その結果をB-DASH(FS調査)事業に展開するには、膜エレメントの改良と膜の維持管理性の検討が必要であった。そこで、令和元年度は、自主事業としてこれらの課題を検討した。</p>
6.参照	本事業は、本財団を研究代表者として、京都大学、北九州市立大学、(株)フソウ、日本水工設計(株)及び阿波製紙(株)との共同で実施しており、自主事業として実施したものである。